

オリーブの会通信

2014年7月5日

発行：特定非営利活動法人KHJ 香川県オリーブの会
〒760-0043 高松市今新町4番地20
連絡先 TEL/FAX 087-843-9877 (川井)
<http://khj-olive.com/>

第145回月例会ご案内



日 時	2014年7月27日(日) 15:15~16:30 (受付:15:00~)
場 所	香川県社会福祉総合センター 6階第1・2研修室 高松市番町1-10-35 Tel 087-835-3334
内 容	15:15~16:30 (1) オリーブの会の今後の取り組みについて他 役員 (2) グループ別話し合い(池田代表参加予定) 前以て話し合いたいテーマがあれば、お知らせください。
参 加 費	無 料

毎日暑い日が続いていますが、皆様にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。さて、「ひきこもりサポーター養成研修」は、6月15日に第二回を開催いたしましたところ、多数の方々のご参加を得て無事に終了することが出来ました。ただ、月例会としては、連絡事項のみとなり十分お話が出来ませんでした。当研修にご参加いただいた会員の皆様には第144回月例会の主旨をご理解いただけたものと思います。今月も引き続き研修と月例会を予定しておりますので皆様のご出席をよろしくお願い致します。

今月は、先月に続き、「平成26年度ひきこもりサポーター養成研修(第2回)」の概略をお知らせします。

(松本副理事長 司会進行)

- ◎ と き 2014(平成26)年6月15日(日) 13:30~16:15
- ◎ と ころ 香川県社会福祉総合センター7階第2中会議室
- ◎ 参加者 90名(・財務大臣政務官山本博司氏 ・県議会議員都築信行氏 受講)
(福祉関係専門家、行政機関、保健所、社会福祉協議会、民生委員、大学生、親の会会員、元当事者等)

講義

「長期化する多様なひきこもりの理解と対応」

(資料あり)

講師：NPO 教育研究所理事長 教育コンサルタント
牟田 武生氏



最初に、「今日は、5月25日の第1回ひきこもりサポーター養成研修時に皆さんから出された『事前アンケート』にお答えする方向で話を進めさせていただき、二部の元当事者とその母親のお話を聞くディスカッションを重視したいと思っている。」旨、先生から前置きされて講演が始められた。

講演内容は、事前アンケートで出された20項目について、資料(A4～8頁)に基づき、順次、丁寧かつわかりやすくお話をさせていただきました。

1. その内容(詳報)につきましては、紙面の都合上割愛させていただき、今回は、20項目(資料のア～ト)までを4つ(A～D)に分類したものを掲載させていただきます。

A「ひきこもりの状態・実態」 5項目

- ア) どのような状態をもって、ひきこもりから回復したと言えるのか
- ① 日常生活の管理が自分自身でできるのか。②他人との人間関係に緊張や不安など特別なストレスを感じないか。③経済的に自立のメドが立ったか。
- イ) 学校に馴染みにくい不登校の子供の心理に興味、関心があった
- ① 不登校は学力面 ②人間関係でのストレス ③無気力(アパシー型)怠学 ⑤意図的 ⑥その他(いじめや教師の体罰など)
- ウ) 歴史的な経緯について、ひきこもりがいつ頃から確認されているのか。戦前?高度経済成長期
- ひきこもりに関する調査がはじまったのは極めて最近のことです。それまでは社会問題化されなかった。
- 高度経済社会は会社社会(管理社会)であり学歴社会になった。
- サ) 発達障害とひきこもりの関係
- 「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」2010年厚生労働省研究班 発達障害 確定診断148件中48件が広汎性発達障害や精神遅滞と診断
宇奈月自立塾132名中29名(確定診断及びその疑いある者)2012年
- ス) センターへの相談は男性が多いが、実態はどうか。
- 一般的には男性が多く、女性が少ないとされているが、ひきこもりの潜在人口は女性が多いと推測されます。

B「ひきこもりへの対応」 7項目

- エ) 本人に面会しようと思っても、本人が拒否している時の対応
- アウトリーチやピアサポートの基本は本人が望んでいる時です。しかし、ほとんどは、他人との交わり拒否しているからひきこもりの状態です。
- まずは親子関係の改善からはじめないとどうにもなりません。
- オ) 家族が受診(精神疾患)に消極的で、本人も納得していない場合の対応
- 精神障害者の場合、自傷他害、幻聴・幻覚で苦しめない限り、病識はありません。ですから、本人が納得して受診することはほとんどありません。
- カ) 中学から不登校で20年のひきこもり、家族は無関心である場合の対応
- 本人自身の問題として無関心の方も多く見られます。しかし、本人自身ではどうにも

ならない状況の人がほとんどです。支援者がいなければどうにも身動きが出来ない場合がほとんどです。

長期間に及ぶひきこもりの場合も基本は①夫婦間の合意②当事者との信頼関係をどのように構築するか③専門家による見立て

- キ) 医療（診療内科 etc）につなげたいと思っているが、適切なところが見当たらない当事者の状況を適切に掴み、スーパーバイザーできる専門家の養成が急務であります。
- ツ) サポーターとして当事者への対応家族への対応の仕方、どのような支援をしたらよいのか。
 - ① 本人の状況・親子関係を含めた情報収集 ③家族（両親や保護者）に対応について十分な説明を行う ⑥当事者とサポーター（支援者）の相性もあるので、相性が悪ければ他の支援者と交代する。⑦当事者とサポーターの信頼関係が成立したら、1対1の関係から1対2、あるいは、居場所などの1対多の関係に広げていく、その際も、サポーターの支援は継続して行う。⑧必要に応じて、医療機関や就労相談や訓練機関、学校等に繋げる
- テ) 最も効果的と思われるひきこもりタイプに対する対応の実例
 - ① 病気をともなう者
 - 第一群 統合失調症など、薬物療法を必要とする群…陰性の統合失調症の群
 - 第二群 広汎性発達障害など、生活・就労支援を必要となる群…本人の適性・中間就労
 - 第三群 パーソナリティ障害など、心理療法的支援が必要な群…病的予防
 - ② 現象面 心因性のひきこもり、ネット依存、現代型うつ
- ト) 長期化する対応の仕方
 - 1、ひきこもりから社会参加へのアプローチ方法 2、ひきこもりから居場所に繋げる 3、就労をめざして 4、就職活動 5、就職後の社会的支援

C「ひきこもりへの支援（アウトリーチ）」 5項目

- ク) 家族から相談があるが、なかなか本人につなげることができない
家族からの相談で本人につなげることが最終目的ではない。最終目的はひきこもり状態の改善であり、ひきこもりから当事者が抜け出すことにある。
大切なのは、遠隔操作、相談者（親）を通してどう関係を改善するか？
親と子のボタンの掛け違いをどう修正するか？そのためには本人の気持ちをどう理解するか、そして、身方になってあげられるのか。
- コ) ひきこもりの親でとりわけ高齢化する親に対しての支援
社会保障と税の一体改革に向け、新たなセーフティネット構築として、生活困窮者自立支援法が平成27年よりスタートする。この法案は生活保護者や生活困窮者の自立支援他、将来生活困窮者になる可能性のある長期化し、高齢化したひきこもりも視野に入れ支援が行われようとしている。これらが間接的には親の支援に繋がっていく。
- シ) ひきこもりの就労支援
のぞましい段階的支援
 - ① 家族の支援 ②家族療法 ③集団療法 中間的な支援場所と療法 ④生活自立支援と本人の適性と、望むことのギャップをうめるための訓練や資格取得 ⑤本人にあった中間的な就労・就職支援→就労
- タ) アウトリーチ活動における注意点、特に家庭内暴力のある家庭に訪問するとき
 - ① 本人や家族の情報を出来るだけ収集し、家族の協力のもとに行うこと ④会えた時感謝の言葉をかけ、終にねぎらいの言葉がけを忘れずにおこなう。また、強制的な要求は絶対的にしない。専門家のアウトリーチよりピアサポート（仲間訪問）の方が効果あります ⑤主治医やカウンセラーがいる場合は連携のもとに行う
- チ) ひきこもり家族の孤立を防ぐ方法

当事者を持つ方や、かつて持っていた方の集まる親の会に参加することによって、孤立を防ぎ、情報交換や交流を深めることによってひきこもり改善の第一歩が開かれます。

D 「ひきこもりに係る連携」 3項目

- ケ) いじめ→不登校→ひきこもりと長期化している事例について、予防的に学校と連携について
いじめが原因で不登校になる児童生徒は多いが、すべての事例がひきこもりへ長期化することはない。長期化する原因はいじめへの対処が十分でなく、表面的な解決だけを行い、児童生徒の心理面でのケアがなされず、両親や先生及び級友に対する対人不信が強くなると、不登校やひきこもりへの長期化が始まる。
- セ) 専門家がもっと連携すべきだと思ったが、なぜ連携がとれないのでしょうか。
「…ひきこもりという概念が覆う領域は非常に広く、その境界はあいまいなものとならざるをえません。」「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」はじめより 2010年厚生労働省研究班
「病気なのか」「病気でないのか」原因は単一原因ではなく、複数の要因が複雑に絡み合っています。こうすれば直る(治る)という治療モデルも、まだ、存在しません。精神医療・教育(家庭教育含む)・心理の様々な問題が複合してこの問題を構成し、近年では労働環境やネット依存・現代型うつ病なども関与していると考えられます。
- ソ) 就労はハローワークやサポステだけでなく、私たちのようなフリーキャリアカウンセラーなどもいます。
お互いに連携しあい、協力し頑張っていきましょう。

◎ ディスカッション

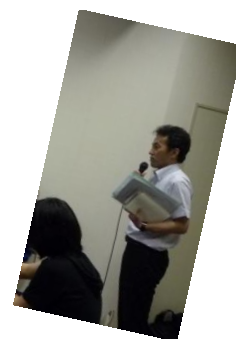
「当事者、家族の話聞く」

香川大学大学院教育学研究科教授

コーディネーター 竹森 元彦氏

コメンテーター 牟田 武生氏

当事者(ピアサポーター)・家族



最初、竹森教授から、ディスカッションの進め方等について詳しい説明が行われ、その後、当事者(ピアサポーター)とその母親、当事者(ピアサポーター)の順で体験談等が話された。
(※の印は、竹森教授)

○ Mさんの場合

- ・小学時代～5年生に進級した後、心が折れて学校に行けなくなった。
- ・中学時代～勉強が付いていけないと母親に言う「いいよ」と言われ、その後ひきこもり、不規則な生活が続いた。
- ・16歳から4年間～母親とマンツーマンで階段を少しずつ昇るような日を過ごす。その間、父は見守り働いてくれた。
- ・20歳時～車免許取るもバイト先で学歴がダメといわれ通信高校入学し、卒業後大学に入学、活動的に動き卒業して今春就職した。

※ 「ひきこもっていた時の気持ちはどうでしたか？」

日本社会の仕組みから疎外された感じ、常に死を意識していた。再起のイメージが湧かなかったが、親より先に死ねないと思った。何のために生きるのかを考え、自分が認められることで母親も認められるし、父母の教育は間違っていなかった証しになると思った。

○ Mさんの母親の場合

- ・不登校の当初～担任の先生とカウンセラーの先生の意見の違いに苦労させられた。
- ・中学時代～「親の話し合いの会」に出席することで気持ちが楽になれた。また、カウンセラーの先生から「休ませてください」といわれ、主人と一緒に静かに見守ることができた。
- ・卒業式～時期をずらして教師全員出席のもと校長室で校長先生から本人に卒業証書が交付され感激させられた。

※「3年間どのように過ごしたのか？」

宿題などはパソコンで担任の先生に送り、校長先生からは手紙を受け取ることもできた。

※「子供を見守るポイントは」

本人に情報を与え、選択は本人に任せ、待つだけです。

※ NOと言える選択を与えることは本人の意思を尊重することとなります。

○ Hさんの場合

- ・小学時代～4年生の時、父の転勤で現在地に引っ越しをした。
- ・中学時代～少々荒れていて進学が危ぶまれたが無事進学校に合格した。
- ・高校時代～入学時から受験体制に入ることにならなかつた。
- ・予備校時代～勉強に力を入れるとともに異性の友にも出会え、無事大学に合格できた。
- ・大学時代～色々なサークルに入るも溶け込めず孤立していった。
- ・大学卒業後～バイト先で仲間外れにされ、そこからひきこもりとなった。
- ・転機 ～自宅に戻り、自宅で本業の手伝いを始めるも、うまくいかず「パーソナル障害」と思い始める。その後、オリーブの会と出会い、続いて「ポレポレ農園」と出会い、冷静に自分を受け止めることが出来るようになり、家業を受け継ぎ、現在に至っている。

※ 短期間でパーソナリティ障害を受け入れ回復したのはすごいことです。

続いて、グループごとの話し合いが短時間行われ、その後、発表された内容の主なものは次のとおりです。

- 母親が子供を信じるのが大切と思った。
- 親は自然体で子供を見守ることが大事である。
- 他人の親を認めると自分の親を認めることとなる。
- ありのままを受け入れ、信じ、待つ、忍耐力に感動です。
- 子供の考えを受け止め親が変わっていくことが大事と思った。等



最後に、牟田先生から

当事者の話を聞くことは大事である。親子の話では、父親が静かに見守り、母親が母性本能で包み込む話であった。先回りしないで子供に考えさせたのは見事でした。パーソナリティ障害への対応として教育者の態度は一つの方法論として立派であると思います。旨のコメントを頂いた。

研修終了後、オリーブ会員は、全員で会場の後片付けを行い、事務連絡を受け、来月の出席を約して散会しました。

以上

6/15(日)は、ポパイの会のみなさん お手伝い有難うございました。

【ポパイの会】

「第2回ひきこもりサポーター養成研修」に参加しました。会場の机、イスの設置、受付業務、参加者の案内業務等、保護者の方々の手伝いをしました。当事者（元当事者を含む）仲間であるHさんとMさんが、受講者の前で堂々と自身の体験談等を話す姿を見て、自分の事のように誇らしく感じました。終了後 机、イスの移動を手伝った後、月例会に参加して7、8月の予定等を聞いてそれについて相談しました。



通常のポパイの会とは違って、以前から自分の親以外の保護者の方々と交流することは、本人にとって、とても意味のある事ではないかと個人的には思っていましたし、本日の研修全般を通じて改めて感じました。

☆当事者と母親が同席して話すというのは、あまり例がないと思われるし、また大変貴重なお話を聞くことができ感激しました。

(6/15 研修会場の写真と文 ポパイの会 Kさん提供)

【2014 / 7・8月居場所活動予定】

内 容	月	日	曜日	時 間	担 当
2014年度第4回運営委員会	7	5	日	13:30～	川井
個人カウンセリング（松田 勝先生）	7	12	土	9:30～	加藤
ポパイの会（お菓子作り）香川医療生協は一もに一へ 13:30までに集合	7	3	木	13:30～	秦 片桐 W 片桐
ポパイの会（パソコン教室）・フリートーク（予定） 高知行きは延期	7	20	日	13:30～	森下
ポパイの会（当事者交流会）香川集合 チラシ同封しています。	8	3	日	13:00～	森下
個人カウンセリング（松田 勝先生）	8	9	土	9:30～	川井

【閑人調 5/29】 KHJ 高知やいろ鳥の会会長 坂本勲氏投稿コラム（高知新聞）より抜粋

兄弟姉妹

ひきこもる子供を何時まで支えるのか、親の場合 答えは出やすい。自分の目が黒いうちはそうすることに躊躇はないし、ある意味そのような圧力が働くお国柄があるのかもしれない。

しかし、兄弟姉妹の場合は親の場合ほど簡単ではない。自分の生活も大変さが予想されるなかで、自分の兄弟姉妹の生活費まで負担出来るのか、そして自分の結婚の障害になるかも知れないと苦悩する。

あまつさえ兄弟姉妹の仲が良くない事もありうる。 ひきこもりという事だけでなく、人生で起こるいろんな事件に思考が絡め取られてしまうと、柔軟なもの見方や発想が難しくなることはないだろうか。

一旦心を落ち着けて、自分たちの状況から離れて、全体を俯瞰できるところまで昇ってみるといのはどうだろう。全く違った解決の糸口が見えてくるのではないだろうか。そのためには仲間の力が助けになる。

出来ない信じ込んでいる事も、みんなで文殊の知恵を働かせれば別の見え方がしてくる。大事なことはみんなで考えを話しあうことだ。ひきこもりの全国家族会では一昨年、兄弟姉妹の会がスタートした。 困難の中でも、協働と信頼関係は人の孤立を防いでくれるように思う。(則)

【おしらせ】

会 議	平成 26 年度香川県ひきこもり対策連絡協議会
開催日時・場所	H26. 7. 1 (火) 13:30~16:30 香川県高松合同庁舎
内 容	1) ひきこもり地域支援センターの活動状況について 2) 各機関のひきこもり支援状況について 3) ひきこもりサポーター養成研修について 4) 情報交換「ひきこもり社会資源マップについて」
研 修	青少年育成支援ネットワーク研修講座 申込み: FAX 087-831-1165 (県男女共同参画課)
開催日時・場所	H26. 7. 21 (月) 13:00~15:30 香川県青年センター3階 H26. 7. 22 (火) 13:00~15:30 仲多度合同庁舎3階 H26. 7. 24 (木) 13:00~15:30 三豊合同庁舎3階
内 容	・オリエンテーション ・ブロック別情報交換会 (3ヵ所の内容は同じです)
会 議	四国ブロック会議
開催日時・場所	H26. 8. 3 (日) 13:30~ 香川県社会福祉総合センター 6F
内 容	・各支部情報交換会 ・全国大会について ・その他
対 象	・四国4県の役員
参 加 費	・各支部 1,000 円

◎「平成 26 年度ひきこもりサポーター養成研修」のご案内

○第 3 回 7 月 26 日 (土) 10:00~12:00 13:00~15:00

香川県社会福祉総合センター (7 階第 1 中会議室)

【講義、ロールプレイ】

「事例から、当事者の気持ちを理解する」 講師: 高橋 晋 (SCS カウンセラー)

「CRAFT による家族支援」 講師: 境 泉洋 (徳島大学准教授)

○第 4 回 7 月 27 日 (日) 13:30~15:00

香川県社会福祉総合センター (6 階 第 1・第 2 研修室)

【講義、ロールプレイ】

「事例から、家族・当事者の気持ちを理解する」 講師: 池田佳世 (KHJ 家族会代表)